

4月

カトリック麹町教会

MAGIS

マジス = 「より、もっと、さらに」

教会テーマ

イエスにつながり 互いを受け入れ 御父の家へ ともに歩もう



主のご復活のお慶びを申しあげます

主任司祭 高祖敏明

「あの方は死者の中から復活された。そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれる。そこでお目にかかれる。」(マタイ28:7)

このたび、サトルニノ・オチョア師の後を受けて主任司祭を拝命した高祖(こうそ)敏明と申します。出身は広島県の瀬戸内海に浮かぶ能美島(現江田島市)で、1947年生まれます。20歳の春(1967年3月)、広島市郊外にあった長束のイエズス会修練院に入り、1977年3月19日に、往時の聖イグナチオ教会にて白柳誠一枢機卿の司式で司祭叙階の恵みを受けました。この3月末に、任期満了

にて聖心女子大学の学長を退任しましたが、その前は、上智大学で40年近く教育学科教員として勤めておりました。その間の1999年4月に上智学院理事長の席を山本襄治師より受け継ぎ、2008年3月まで勤めました。2003年には上智大学創立100周年を祝い、11月1日の創立記念日(諸聖人の祝日)に、ローマからお迎えしたフランシスコ教皇の名代ラツファエレ・ファリーナ枢機卿の司式のもと、聖イグナチオ教会主聖堂を満席にして記念ミサを捧げられたのも、心に残る思い出です。

ヘルマン・ホイヴェルス師や山本襄治師、ルイス・カンガス師をはじめ、歴代の主任司祭の諸先輩には、経験の面からしても遠く及びませんが、精一杯尽くして参りますので、どうぞご支援、ご協力のほどよろしくお願ひ

たします。

自己紹介を続けますと、実家は安芸門徒の家系で、私がカトリックに触れたのは広島学院中学・高等学校に入学してからです。6年間通った小学校は、道路を挟んで世界平和記念聖堂に面していましたが、お昼に教会から鳴り響く「お告げの祈り」の鐘は、給食時間が来たことを告げる合図のよう

に受け取っていました。中学3年生の1961年6月18日、7人の仲間とともに広島学院の聖ヨセフ聖堂にてスペイン人宣教師ルイス・P・レデスマ師から洗礼を受けました。受洗にあたって聖人伝を調べ、自分の誕生日に近い祝日の聖人を選び、レデスマ師に「イグナチオにします」と伝え

たします。人なのかを改めて調べてみました。これがイエズス会創立者との出会いです。洗礼名も、この縁で乗り換えたのですが、このたびもヨヨラの聖イグナチオが引き寄せたのでしょうか。

予測が困難な超スマート社会(Society 5.0)への移行が進むと同時に、パンデミック、戦乱、大地震、気候変動などの地球環境問題などが、これまでの生き方や社会の仕組みを変えるよう促しています。聖イグナチオ教会が「死者の中から復活されたあの方」と出会う「ガリラヤ」となり、私たちが新しい生き方に目覚めて、新しい生命の交わりに生きることが出来るよう一緒に祈り、一緒に努めて参りましょう。

教会報 MAGIS 4月号

† 2023年度教会テーマ	P2
† ミッション 2030 黙想と分かち合い	P3
† Family of St. Ignatius ～インドネシア共同体から～	P4
† 教会活動グループ便り ②	P5
† 連載 光をつないで ④	P6

ミッション2030 黙想と分かち合い

あなたにとって教会は “わが家”になっていきますか

「祈り・つたえ・つながり・ともに歩む」小さな私たちの分かち合い」と題するミッション2030の集いが、2月12日(日)、ヨセフホールの対面とZOOM配信にて開催されました。

(代表 星野和子)

「ミッション2030」は、聖イグナチオ教会と私たち信徒が今後どのように歩んでいけばいいかを示した方向性です。2016年に教会の方針に決まり、以降、「祈りを深める」「福音を伝える」「共同体を生きる」「新しい協働」という4つの柱に沿って、取り組みを行ってきました。今年度からはさらに多くの皆さまと共に、ミッション2030に示されている精神を歩んでいけるように努めて参ります。

その取り組みの一つとして行われたのが、「祈り・つたえ・つながり・ともに歩む」小さな私たちの分かち合いです。テーマは「あなたにとって教会は“わが家”になっていきますか」でした。これは、「共同体を生きる」と

いう柱に沿った取り組みを行った年の目標でもありません。あれから約3年経ちますが、私たちの教会は、誰もが“わが家”と感じる場になっていくでしょうか。

今回の集いでは、サトル・オチオ神父の講話の後、静かな黙想の時間を過ごし、その後小グループでの分かち合いを行いました。

オチオ神父さまのお話

「その昔、神は預言者を通して語られました。今は御子イエス・キリストをもって語られています。最後の晩餐の場面で弟子たちが『父である神の顔を見せてください。そうしたら信じます』と言いますね。するとイエスはこう言われます。『わたしを見る人は、父である神の顔

を見る』。これです。イエスは神の声、神の顔、神のみことばです。

イエスは神の子でありながら、私たちと同じ人間になりました。誘惑もされたし、様々な苦しみを受けたし、泣いたり、怒ったり、叱ったりもしました。罪を犯さなかつたこと以外、すべて私たちと同じです。だから私たちが『道』です。つまり生き方、歩み方なのです。

私たちは教会として、信じる人として、イエスと共に、仲間と共に、弱い人と共に歩んでいく。これが私たちの道、信仰の道、私たちのミッションです。私たちの生き方を見て、まだ信仰に入っていない人たちが『これがキリストの生き方なのだ』とわからなければいけません。1970年代、私は神学生としてフランスとカナダで勉強していました。当時、流行っていた歌に『私はイエス・キリストの顔を探しています』という歌詞があり、それに続く答えが、『あなたはイエス・キリストの心。あなたはイエス・キリストの手。あなたはイエス・キリストの足』

というフレーズでした。

イエスを見つめましょう。そのためには福音を繰り返し読むことです。読んで頭で理解するのではなく、心で味わうのです。それが『主を見た』ことになり、それがすばらしい祈りになります。そしてそれによって、私たちは自信をもって生き方でイエス・キリストを表すことができるようになります。私たちの生き方は、秘跡そのものなのです。

私には、忘れられない一人の日本人シスターがいます。あるとき彼女は料理をしていました。どのようにご飯を炊くか、どのようにお茶を淹れるかと、考えながら料理する姿は祈りそのものでした。私たちもそうした生き方を心がけましょう。そうすると、私たちのミッションもすばらしいものになります」

参加者の分かち合いから

「教会をわが家のように感じている。神父やシスターに悩みを打ち明けられる雰囲気は、一人暮らしの高齢者にとってありがたい」

「家」というのは人間的なつながりがあるということ

と。皆が教会をわが家と感じるようになるには、互いの声に耳を傾け、誰もが平等だと感じる雰囲気を作る必要があると思う」

「洗礼を受けて日が浅いので、わが家と感じるには至っていない。でも今日、『ゆっくりと歩めば良い』とアドバイスを頂いた。時間をかけてわが家にしていきたい」

「コロナ禍に入ったばかりの頃、教会が閉鎖された。その後、解除され、久しぶりに教会の建物を見て、教会はわが家だ！と感じた」

「旅先で教会に行くと、どこでも快くミサに参加させていただき、時にはお茶会に招いていただくことも。大きな意味で教会はわが家だ」



マジス読者の皆さまにとって、聖イグナチオ教会は“わが家”になっていきますか。機会があったら考えてみてはいかがでしょうか。

今後も、このような黙想と分かち合いを定期的開催して参ります。そうした集いを通して、つながりを作り、深め、誰もがあなたかきを感じられる教会になっていければと思います。

教会行事

2月下旬の主な教会行事をご紹介します。

●灰の水曜日ミサ

2月22日(水)①7時②12時③19時の3回にわたって行われました。参加者は①30人②576人③327人でした。

19時からの配信ミサで、司

●聖週間を迎えるにあたって

柴田 潔神父

〈灰の水曜日とは〉

灰の水曜日には、昨年の枝の主日に祝福された棕櫚を燃やした灰を頭に受けま

す(コロナ禍のため額ではなく頭に受けました)。灰は微粒になるまで粉碎していま

〈大斎・小斎について〉

「イエスは、…四十日間、昼も夜も断食した後、空腹

式のサトルニノ・オチョア主任司祭は福音朗読を受け「四旬節に入るに当たり、私たちは父である神から愛されていることを感じながら、隠れた場所で神に祈ることが大切です。謙遜に頭を下

げ、罪人であることを自覚して、ご復活まで頑張りましょう」と話されました。

その後、参加者は回心の印として灰の祝福を受け、聖体拝領に与りました。

を覚えられた(マタイ4:1〜2)。灰の水曜日と聖金曜日は大斎です。一日に一回だけ十分な食事を摂り、もう一回はわずかな食事にす

る断食です。18歳以上60歳未満の信者が守ります。

小斎は四旬節中の金曜日に肉類を食べないことですが、各自の判断で節制・償

いの業に代えることができ、14歳以上の信者が守ります。

四旬節の40日間は洗礼志願者のために祈り、また自分たちの洗礼の時を思い起こし、洗礼の約束を更新する準備をします。また戦争や地震で苦しむ方々に祈りと犠牲をお捧げしましょう。

●洗礼志願式ミサ

2月26日(日)10時から復活祭での洗礼志願者65人と代父母が与りました。

司式のオチョア神父は福音朗読(マタイ4:1〜11)を受け語られました。

「誘惑(試み)はある意味で私たちが大きな愛を見せるチャンスです。全てを尽くして神を愛し、また隣人を

自分のように愛し、日常生活におけるあらゆる誘惑に打ち勝って、最後まで闘う

ことができまますように。主イエス・キリストの声に耳を

傾け、全てを犠牲にして主と共に歩みましょう。」

その後、洗礼志願者全員に使徒信条が授与され、塗油(救いの油)が授けられました。



▲灰の祝福を受けて。左から関根悦雄神父、オチョア神父



Family of St. Ignatius

～インドネシア共同体から～

キリストのご復活、おめでとうございます。

コロナ禍が始まってから、4年間が経ちました。私たちは今、ポストパンデミックの時代にいると言われていま

す。コロナ禍後の時代は、二つの意味で理解する必要があります。コロナ禍後は、ウイルスになれてきたという意味に、コロナ禍による様々な生活の変化になれてしまったという意味も付け加えられました。パンデミック時代の影響は多様で、世界の多くの場所に影響を与えています。その中の一つは孤立です。これは、教会としての

てんれい せつきよくてき さんか いよく ていか てんれいさんか 典礼への積極的な参加意欲の低下や典礼参加による相互的に希望の象徴になる意識の消滅も現れていま

す。共同体構築の観点からみると、若い世代のための信仰教育がどの程度で維持し続けられているか？また、私たちは、自分の家族を教会の家族の一員とする意思をまだ持っているのでしょうか。 コロナ禍後に復活したキリストの体に戻りましょう。キリストの復活した体は、文化や地理的な国境を乗り越える力を与えます。キリストの復活した体は、常に包括的な体です。それゆえ、復活節は、私たちの信仰の中で持っている共同体の感覚を取り戻すのにふさわしい時期です。キリストのご復活は、コロナ禍後、キリストとともに新しい共同生活を送るためのきっかけとなりますように。(フィルマンシャー・アントニウス神父)

活動グループ便り ②

各活動グループから、現在の活動状況の報告です

イグナチオ文庫

新たな体制で図書室を運営

1998年1月に信徒会館2階に現在の図書室ができてから、「図書グループ」と「子ども図書」の2つのグループが共同で図書室の運営を行ってまいりました。今から約1年前の2022年3月のことになりましたが、「図書グループ」と「子ども図書」が一つのグループになり、「イグナチオ文庫」としてスタートすることになりました。活動の内容は、これまでに両グループが行ってきたことを基本的に継承しています。図書を購入して蔵書を充実させたり、日曜日に図書の貸し出しを行ったり、年に3回絵本の読み聞かせの会を催したりしています。

現在は、日曜日の午前10時30分から12時まで図書室を開いています。今後は、ミサで聖堂に入れる人数が

※活動グループの活動内容・スケジュール等は変更になることがあります。また講座に初めて参加される方は、講座担当者か教会事務室にご確認ください。

緩和されていくのに合わせて、図書室を開く時間を前後に延ばす予定です。キリスト教に関する本をはじめ絵本やマンガもあります。何かしら読んでみようと思えばと出会えると思います。

1回の本の貸し出しも4週間と長いので、本を借りやすいです。ミサの後や教会学校の前後に是非お立ち寄りください。

また、教会の活動を長く続けるには、身の丈に合った活動を楽しんでいくことが重要だと私たちは考えています。これならできそうだなと思った方や私たちの活動に興味のある方は図書室まで足をお運びください。
図書室の開室時間 日曜日 午前10時30分〜12時

グエン・ミン・トアン神父 Sr.大原悦子 入門講座

テキストは 百瀬文晃神父の著書

2022年の春から求道

者クラスとして始まりまし
た。百瀬文晃神父著『キリス
ト教に問う65のQ&A』を
テキストにして、パワーポイ
ントも使いながら楽しく勉
強しています。毎回最後は
「振り返りと分かち合い」
があります。

現在、参加者は信徒5名
と求道者1名という小さな
グループですが、信徒から
は体験を通して真実の話、
求道者からは率直な疑問や
意見が出され、生き活きと
した分かち合いが行われて
います。クラスが始まった当
初は、神学生であったミン・
トアンさんが途中で叙階の
恵みをいただき、神父様にな
られたことも大きな喜び
でした。百瀬神父のテキスト
を終えるまでは、現在のの
やり方を続けていきます。

その後のことは話し合っ
て決めましょう。最後に、求
道者の方の率直な言葉を記
します。



▲講座担当のミン・トアン神父

「キリスト教に興味はあ
るけど、そもそもどんな教
えなのか」という段階の人で
も、参加しやすいクラスだ
と私は思います。意見の分
かち合いを行う時間では、
私のちよとした疑問につい
て、他の参加者の皆さんに
一緒に考えていただいたこ
ともあり、それによってわ
かったこともあります。毎
回のクラスをとっても楽し
みにしています。 北村 綺望

Sr.品川ヨシ子 4つの講座

わかりやすく解説

Sr.品川の講座は、キリス
ト教の理解を深めたい方が
どなたでも学べるように、
4つの講座があります。

「聖書と絵画で祈る会」
は第一土曜日10時30分
から301号室で開講。聖書の
場面が描かれた世界中の名
画を鑑賞し祈りを深め、感
想を分かち合います。

「入門講座」は第一、三、



四土曜日17時から203号
室で開講。主日の『聖書と
典礼』を用いて、信者の生
活に則してキリスト教を学
んでいます。シスターが聖
書をかみ砕くように説明、
時折大変ユーモラスなエピ
ソードの披露もあり、いつ
の間にかキリスト教の知識を
学べています。洗礼希望の
方をお待ちしています！

5月からは水曜日夜にも
「入門講座」を開講します。
詳細はポスターやホームペ
ジをご覧ください。

「カテキズム」は第二、四
火曜日20時からオンライン
で開講。教会の教えの理解
を深める信徒を対象とした
養成講座で『カトリック教
会のカテキズム』を通読して
います。信仰生活を送る中
で大切な事を、テキストを
通してシスターがわかり易
く解説してください。
また、不定期に巡礼など
も行っていきます。

連載 光をつないで ④
祈り、働き、主の家に憩う

「光をつないで」は、当教会の青年信徒が聞き手となり、信仰上の諸先輩からその人生と神との交わりについての話を聞くことで、神とともにこれからの人生を歩むためのヒントを得ることを目的とした連載です。4回目は、当教会信徒マリア・イグナチアさん(61歳)に伺いました。 ※語り手の名前は愛称

——子ども時代の思い出を教えてください。
ペルーのリマで生まれ育ちました。父は仕事から帰ると毎晩「守護の天使への祈り」を一緒に唱えてくれたものです。寝室には、両手を広げて見守る天使の壁飾りがありました。私たちが上の3人の娘は大きくなると、父がしてくれたように、下の6人の妹や弟の寝室を訪れて一緒に祈りました。

クリスマスが近づくと父が1巻の布を買ってきて、母が私たち姉妹にお揃いのワンピースを縫ってくれました。ペルーは南半球ですから、サマードレスを着てご降誕のミサに行くのです。まず長姉が呼ばれて、体型に合わせて修正してもらいます。そんな姉をうらやましく思っ

いと、次の日には私も母に呼ばれるのでした。毎年新調してもらえなかったのですが、ある年のピンク色のものと、別の年の水色のものが心に残っています。

8歳の頃には聖劇で天使の役をもらい、母が服を、父が羽と光輪を作ってくれました。毎晩母のミシンの音を聞きながら眠ったものでした。

——来日されたのはいつですか？

1995年です。ペルーのテレビ局で働いていましたが、経済の悪化に伴い給与は3割現金、7割金券になりました。スポンサー企業発行の娯楽用品の金券です。物価も急騰する中、これでは弟や妹たちを食べさせることができませ

『おしん』などの作品で親しみをもっていた日本に出稼ぎに行くことを決めたのです。

来日してお弁当工場で働きました。言葉もわからず、見よう見まねで仕事を覚え、給料はペルーで聞いていた額の半分以下でした。日本への渡航費の月々の返済と、一人暮らしの生活費を払い、あとは母に送りしました。

支えとなった教会生活

長時間の立ち仕事で足はパンパンになりました。ベルトコンベアは流れが速く、慣れるまで叱られました。仕事中はひたすらアヴェ・マリアの祈りを繰り返して心の中

で唱えました。毎晩家族に電話しました。一人暮らしの静寂に耐え切れず涙が出ました。家族も寂しいようで、何度も「もう十分助かった。ペルーに帰ってきてほしい」と言われました。

ついに限界がきてペルー大使館に電話し、「スペイン語を話す教会を紹介してください」と頼みました。住所を言われてもわからず、渋谷駅で待ち合わせして職員の方に連れてきていただいたのが聖イグナチオ教会です。

それから教会の日本語教室や日本の家庭料理教室に通いました。お礼にスペイン語ミサや、スペイン語圏にルーツのある子どもの教室で奉仕しました。どれだけ

身体が疲れていようが、教会が心のオアシスでした。歌の練習にミサ、勉強会と日曜日は一日中教会で過ごしました。この教会の人々は私にとって日本の家族です。

両親との別れ

父が倒れたという知らせを受けたときも聖堂に来て祈りました。初めは動揺し、「どうか父を助けてください」と祈りました。しばらくして心が静まり、すべてを神さまに委ねました。弟から「パパは今旅立ちました」と連絡が入り、幼い頃一緒に行った公園、日曜の教会の後の楽しい外食、寝る前の天使の祈りなどの記憶が走馬灯のように駆け巡りました。ただ、あなたの娘に生まれてよかった、と感謝の気持ちに満たされました。

3年後、母も旅立ちました。いつかまた両親と再会することを夢見ていました。今年やっと夫とともに、ペルーを出てから初めて一時帰国します。

◇ 「主は我らの牧者。私は乏しいことがない」(詩編23:1)を胸に歩んできたというマリア・イグナチアさん。祈りつつ働くうちに働きは祈りとなり、人は神の摂理を実感として受け入れる、という古言が彼女を通して光り輝く。



▶来日時にお母様から譲り受けたロザリオ、スペイン語の聖歌を録音したカセットテープ、スペイン語で書かれたキリスト教の本など。信仰生活や教会奉仕の助けに。



●宣教司牧評議会からのお知らせ●

(3月2日開催)

1. 2023年度年間行事予定表の修正案が承認されました。
2. 2024年度の献堂25周年記念行事実施に関して、新年度4月に実行委員会を立ち上げることが承認されました。
3. 2023年ワールドユースデー・リスボン大会に派遣者13名が選出されました。皆様には引き続き、支援の寄付をお願いします。
4. 復活の主日のミサで、イースターカードを配布することが決まりました。
5. トルコ南東部地震救援募金へのご協力をありがとうございました。灰の水曜日までに、各コミュニティ全体で約170万円の寄付がありました。募金活動は継続していく予定です。今後もお協力をお願いします。
6. 一筆キャンペーン第2弾を、四旬節から復活祭に向けて行います。教会のつながりを戻すため、また強めるために、信仰の友にメッセージを送りましょう。

●ミッション2030 黙想と分かち合い●

「お互いの声に耳を傾けよう」

日 時：4月23日(日)11:15～12:30

場 所：信徒会館 2F 203号室

申 込：4月9日(日)開始、定員20名

詳細は教会ホームページ、ポスター、チラシをご覧ください。

●主日ミサ YouTube 配信について●

主日ミサの入室制限が無くなりましたので、日曜10時ミサのインターネット(YouTube)配信は4月9日(日)以降、月の第1・第3日曜のみとなります。英語、スペイン語、ベトナム語のインターネット(YouTube)配信は4月9日(日)の配信で終了いたします。

●3月のお知らせ(3月3日要旨)●

2月22日、東京大司教区 菊地大司教様から「3月以降の感染症対策に伴う教会活動の制限について」の指針が出されました。その内容を踏まえ、聖イグナチオ教会では下記のように感染症対策を変更いたします。

1. 主聖堂の入室人数制限
 - 1) ミサの定員を固定席数の700人とします。
 - 2) 3月12日(日)から主日10:00ミサの予約制を中止します。
 - 3) 入室者が多く見込まれる特別な典礼の場合は予約制とする場合があります。
2. 他の聖堂の人数制限
ザビエル聖堂 80人、マリア聖堂 180人、クリプタ 40人
3. 土曜日12:00の「高齢者、基礎疾患のある方のためのミサ」について4月1日(土)で終了し、4月15日(土)からは通常の土曜日の典礼に戻ります。
4. 日曜 16:30の英語ミサは4月9日(日)から中止します。
5. マスクの着用について
 - 1) 感染対策には個人差があると思いますが、今しばらくマスク着用をお願いします。
 - 2) 主日ミサでの聖歌は3月4日(土)から会衆もマスク着用で歌うことができます。
6. 聖体拝領について
 - 1) 3月4日(土)から聖体拝領直前の手指消毒は中止します。
 - 2) 入室時に手指消毒を必ず行ってください。
 - 3) 口での拝領をご希望される方は、手指を介した他者への感染を防ぐため、ミサが終わってから香部屋に移動して声をかけてください。ザビエル聖堂での拝領になります。
7. その他
 - 1) 3月4日(土)夕方から告解は主聖堂の告解室で行います。
 - 2) 信徒会館内での飲食は感染対策を十分にとる場合、可とします。
 - 3) 折り鶴プロジェクトは今年の復活祭をもって終了します。

4月の典礼と行事

2 (日)	受難の主日 (枝の主日) 聖週間	日曜サロン 11:00~12:30 ヨセフホール
6 (木)	聖木曜日 (主の晩餐)	19:00 聖香油のミサ(10:30カテドラル)
7 (金)	聖金曜日 (主の受難) (大斎・小斎)	19:00 十字架の道行 15:00 聖地のための献金
8 (土)	聖土曜日 (復活徹夜祭)	19:00 (洗礼式)
9 (日)	復活の主日	聖体奉仕者任命式 10:00 ミサ 新主任司祭歓迎セレモニー 10:00 ミサ 洗礼式 15:30 ミサ
12 (水)		傾聴ルーム 13:00 ~ 15:00
14 (金)		祈りの集い 19:00
16 (日)	復活節第2主日 (神のいつくしみの主日)	初聖体 10:00 ミサ
19 (水)		クリプタに安置され4月に命日を迎える方々のためのミサ 12:00 『社会問題とカトリック教会の考え 2023年度連続セミナー』 「シノドス」とともに歩む教会を目指して 18:30 ヨセフホール シノドス：今までの歩み -今年のプログラムと方法- 講師：ボネット・ビセンテ神父
23 (日)	復活節第3主日	改宗式 10:00 ミサ ミッション2030 小さな分かち合い 11:15 ~ 12:30 203号室 日曜サロン 11:00 ~ 12:30 ヨセフホール
26 (水)		傾聴ルーム 13:00 ~ 15:00
27 (木)		ヤングオールド映画会「マリア」 13:00 ヨセフホール
30 (日)	復活節第4主日	歓迎会 10:00 ミサ後 世界召命祈願の日

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため予定が変更になる場合があります。最新情報は聖イグナチオ教会ホームページでご確認ください。

◎ 2023年ワールドユースデー(WYD)リスボン大会派遣者決定 ◎

1月に募集しましたWYD派遣プログラムには19名の応募があり、厳正な選考の結果、13名の若手信徒が決まりました。1名の辞退者が出ましたが、3月19日(日)に派遣任命式が行われました。サトルニノ・オチョア主任司祭より任命書が一人ひとりに授与され、正式に【聖イグナチオ教会ワールドユースデー2023リスボン大会巡礼派遣団】が発足しました。

1人当たりの渡航費用は約45万円、その支援のために献金活動を行っています。4月2日現在献金総額は239,161円です。ご献



▲オチョア主任司祭からの任命書を手にした派遣者の一部と代々の派遣者から引き継がれる「巡礼の十字架」(左下)

金くださいました方々に感謝を申しあげますとともに、信徒の皆様のご協力とお祈りを引き続きよろしくお願ひいたします。

～12名の派遣者氏名～

岩崎華子(日曜学校リーダー)、宇留野真人(国際青年会)、岡愛子(中学生会リーダー/侍者会リーダー)、オーゾー・ダリングトン・オビナ(国際青年会)、紀藤香耶(土曜学校リーダー)、グエン・チ・リン(ベトナム語青年会)、桑田早綺(元日曜学校リーダー)、疋田幸乃(子ミサ楽隊)、ファレリ・アウレリア(国際青年会)、村山和香(日曜学校リーダー)、山澤綾乃(侍者会リーダー)、山澤遥乃(侍者会リーダー) (50音順)

聖イグナチオ教会ワールドユースデー
2023リスボン大会派遣準備委員会

主任司祭：高祖 敏明

助任司祭：ボニー・ジェームス
グエン・タン・ニャー
サトルニノ・オチョア
柴田 潔

協力司祭：ヘネロソ・フローレス
ハビエル・ガラルダ
関根 悦雄

マヌエル・シルゴ
シスター：イベッテ・サンチェス
(セントロ・ロヨラ)

フロール・フロレーセ
(ジョン・デ・ブリット イングリッシュセンター)

ミサ参加方法はホームページ、教会事務室で確認してください。

ミサの時間 Mass

【平日 Weekday】主聖堂 Main Chapel
7:00/12:00/18:00

【土、日曜日 Saturday & Sunday】主聖堂 Main Chapel
土曜 18:00 日曜 7:00/8:30/10:00/18:00
12:00 (English) /13:30 (Español) /
15:00 (Việt Nam)

【月の第1日曜日 1st Sunday】
Our Lady's Chapel
12:30 (Português) /16:00 (Polski)

【月の第2第4日曜日 2nd & 4th Sunday】
Our Lady's Chapel 16:30 (Indonesian)

カトリック麹町教会
(聖イグナチオ教会)

〒102-0083
千代田区麹町6-5-1
TEL 03-3263-4584
FAX 03-3263-4585
<http://www.ignatius.gr.jp>



ホームページ



フェイスブック

『マジス』へのご意見ご要望などのお便りは事務室までお寄せください。